

辻 浩 (名古屋大学)

総合教育政策として生涯学習を発展させるために

1. 提案にあたっての 2 つの視点

- (1) 社会教育は歴史的には立場の弱い人や低い階層の人への学習機会を提供するという側面が大きい

学校の代替的な教育＝子守学校、特別学級、保育

上級学校に進学できない青年＝青年会、実業補習学校、青年学校

誰もが学校教育を受けられるようになる中で生まれた新しい課題

不登校、中途退学、引きこもり

新卒無業

教育福祉としての生涯学習

- (2) 生涯学習は総合教育政策として柔軟な連携によって発展させることができるのではないか

生涯学習が局名でなくなってきたことの不安定さ

生涯学習として単独で提案するよりも柔軟な連携ができ可能性が広がらないか

初等中等教育政策局や高等教育政策局と連携することで新たな展開

他省庁との連携をすすめる上で学校と連携していると交渉しやすいのではないか

2. 困難を抱えた人をめぐる省内連携にかかわって

- (1) 不登校・高校中退と学び直しの支援

高等学校卒業程度認定試験への支援、受験勉強の支援

通信制高校のサポート校

自主夜間中学（貧困、民族、障害、中学の形式的卒業など）

北九州市青春学校（自主夜間中学）を北九州市立穴生中学校夜間学級に認定

高校や中学との連携で学び直しの支援ができないか

- (2) 障害者の学校から社会への移行

全国専攻科（特別ニーズ教育）研究会

私立の特別支援学校高等部に専攻科、就労支援施設に福祉型専攻科

障害者青年学級を生涯学習型専攻科にすることができないか

NPO立の知的・発達障害の人のための大学（無認可）＝見晴台学園大学
18歳以降の選択肢の一つ、福祉的な支援から経費を調達
学習の目的、授業の仕方、評価の仕方における工夫
生涯学習セミナーの開催
肯定的に自分をふり返る、講義の聞き方、自治的・参加的な運営
特別支援学校との連携で障害のある人の18歳以降の多様な進路をつくれぬか

(3) 子ども・若者支援への生涯学習アプローチ

ドイツ、北欧、ポーランド等での「総合社会活動」「社会空間指導」の実施
子ども・若者支援専門職養成研究所
学校でもない福祉的支援でもない「第三の領域」＝ターゲット支援とユニバーサル支援の両面
首都大学東京（都立大学）での高校卒業者の追跡インタビュー調査
就職や進学が決まらずに卒業する高校生、高校卒業後5年で何を体験するのか
断片的な自己をつないで物語を紡ぎ自己アイデンティティを感じられる支援
高校との連携でハイリスクな青年に関わり続けることはできないか

(4) 大学におけるキャリア教育と障害のある学生

発達障害ないしそれに近い学生の就職による苦勞
大学での支援のあり方は手探り
ハローワークと連携した実践もあるようだが苦し紛れのような感がある
大学との連携でジョブコーチをつけたインターンシップができないか

3 協同的探究学習と科学技術の革新

(1) 科学技術の革新につながる「協同的探究学習」をすすめる中等学校

イノベーションに必要な領域横断的考え方
そのために提示される複合的課題が作り物という印象
生涯学習との連携で住民の暮らしや地域の産業、伝統文化と結びつかぬか
隠岐島前高校から始まった実践の広がり＝阿智高校観光科における全村博物館
に取り組む大人とのかかわり

(2) デジタル変革の末端で能力を開花できなくなる問題

SNSや携帯に取られる時間と変わる生活文化（携帯依存とでもいえる状況）
怠学、学力低下、職場不適應、引きこもりの原因にもなりうる
学校で注意するだけでは済まないように思われる
学校教育と生涯学習の連携でSNSや携帯との付き合い方の文化がつけられないか